

研修プログラム・研修施設申請書

(申請書類1-1)

プログラムの特徴			
プログラムの名称	長野厚生連佐久総合病院在宅医療養成プログラム	プログラム・コーディネーター	小林 和之
研修期間	1 年	カ月	受け入れ人数
代表施設名	名称	長野厚生連佐久総合病院付属小海診療所	
	住所	(〒384-1102)長野県南佐久郡小海町大字小海4269-9	
	電話番号	0267-92-2163	問い合わせ先メール
研修施設名2	佐久病院地域ケア科	研修施設名3	
研修施設名4		研修施設名5	
研修協力機関	① 国民健康保険川上村診療所 ② 国民健康保険南牧村診療所 ③		
研修協力医	① 矢藤 有悟 ② 小林 和之(専門医) ③		
研修プログラムの特徴(自由記載)	地域のほぼ全ての医療・保健・福祉のニーズに関わる佐久病院の地域ケアネットワークの中で、在宅療養支援診療所である小海診療所を中心に、在宅医療から地域ケアへの広がりを実践の中で学ぶ。99床の小海分院・350床の本院・450床の佐久医療センターの入院機能にも関わることができ、更に病院での検査手技の習得や各種学習会などにも参加可能。本院地域ケア科(在宅登録患者数300人)や、農村部の国保診療所での在宅ケアに関わることが可能。このように癌末期や難病のような医療依存度が高い在宅から、認知症など包括ケア型の在宅まで、様々な医療機関での在宅ケアを同時に学べることができる。特に医学生・研修医教育に力を入れており、また多職種協働は最も歴史を持ち更に教育の機能を強化する予定。		
ポートフォリオ領域(研修において特に力を入れている領域について)	1. グリーフケア: 死後デスマリーを作成し、ケアの振り返りと共にグリーフケアに繋げる活動を30年前から実践している 2. 社会保障制度: 現在の医療制度の課題・問題を理解し、高齢化先進地という農村での実践から発信すべく社会医学を学ぶ 3. 多職種協働: 多職種カンファは30年の歴史あり。IPWの実践と共に地域でのIPE(多職種協働教育)を実施している。 4. 在宅医療諸相: 入院医療にも関われる特性を活かし、在宅と病院の特性を深く理解するとともにその連携を促進する役割を果たす 5. 地域づくり: 農村医療のパイオニアとして農村地域を守る活動を展開する。医療・福祉での地域づくりを実践する		
研修施設概要			
研修施設名	佐久総合病院小海診療所	研修受入人数	2人
住所	(〒384-1102)長野県南佐久郡小海町大字小海4269-9		
電話番号	0267-92-2163	F A X	()
メールアドレス	kobakoba0405@gmail.com	ホームページ	http://www.sakuhp.or.jp/ja/index.html
医師数(常勤/非常勤)	1人 / 9人	在宅患者総数(年間)	111人
がん患者数(年間)	29人	在宅看取り数(年間)	33人
外来診療の有無	有	入院施設の有無	無
外来人数(一日平均)	32人	ベッド数	床
研修資源(関連施設・事業所)	佐久病院本院・小海分院・佐久医療センター・各国保診療所(4カ所)・訪問看護ST(併設)・居宅介護支援事業所・老健・特養・宅老所地域包括支援センター(以上佐久病院グループにて)・住宅型有料老人ホーム・生活支援ハウスなど多数		
在宅で実施可能な手技	診断(検査)	(自宅) 血液検査・動脈血液ガス分析・エコー	(外来) XP・ECG・各種臨床検査など(臨床検査技師在)
	治療	基本的にすべて(IVH持続点滴・人工呼吸器・CPAP・CAPDなど)	
指導医氏名	小林 和之		
指導医略歴	小林和之 佐久総合病院初期研修医、総合診療科専攻医を経て、家庭医療専門医を取得。その後、小海分院、南牧村診療所で在宅医療に携わり、在宅医療連合学会専門医を取得		